



カレッジ college news だより

2007 Mar.
vol.

11

道民カレッジ受講生数
20,318人 (2月28日現在)

「日々を学ぶ」

ほっかいどう学コース 道民カレッジ修士
音更町 内田美佐子氏



私が道民カレッジ手帳を手にしたのは平成17年の6月のことでした。その3年ほど前から大谷短大で開かれていた講座は、幾つも受けていたのですが、それが、道民カレッジ連携講座の一つで、帯広でも行われていることを知ったのは、ある日のことでした。

大谷短大の受付に並んでいた時、前の人に「道民カレッジ手帳をお持ちですか」と聞いているのが耳に入り、そこで初めて連携講座のことを知ったのです。それまでにもこの講座のことは何度も文書になっていたのに、私の注意力が足りなかったのが残念でした。

その後は、私の学びの日々が始まりました。毎月、様々な分野の講座があり、そのどれもが興味深いものでしたが、殆どが夜に開かれますので、仕事から帰ってくる夫とはすれ違いになります。そのことが気になりましたが、夫が「女房元気で留守がいい」と言ってくれるのを幸いに、休まず受講しています。

私が、道民カレッジで学ぶようになって驚いたのは、各地で実に多くの講座が開かれていることでした。中には医療事務講座や陶芸教室、シルバースイミングなど受けたいと思うものが沢山ありますが、それらは札幌や江別、函館なので諦めるしかありません。

将来、地方でも受けられるようになるといいのですが、それには受講生側も行動することが必要でしょうか。

この生涯学習講座を受けている人の多くは、一線を退いた人達です。けれども、どの人も熱心に生き生きと学んでいるのです。私は、この学びの場を通して、多くの人と知り合うことが出来、社会が広くなりました。

そんな中で、ここで学んだことを地域づくりに活かすことが出来ないだろうかと考えるようになりました。なかなかいい案が浮かびません。そして気かけながらも日を重ねていましたが、ある講座の先生が「何かの形で町づくり、地域づくりをしようと考えなくても、いま皆さんが元気に学んでいることが地域づくりになっているのです」と話され、心が軽くなりました。

考えてみますと、私は生涯学習講座を受ける為に大谷短期大学や帯広畜産大学に行きましたが、それまでは機会がありませんでした。他にも十勝に長く住みながら知らずにいた名所や遺跡、文化財、開拓の歴史を伝える資料施設があることを知らずにいたのです。

町づくりをするには、まず自分の住む町のことを知ることが大切だと気がきました。

楽しみながら学んでいる道民カレッジも、いつの間にか博士号の単位を得ることが出来、近く申請しようと思っています。今年度も一年、関係機関の皆様ありがとうございました。

道民カレッジの現況

(平成19年2月28日現在)

今年度の連携講座数は、前期が823講座、後期が779講座あり、前期・後期を合わせ、1,602講座となっております。また、19年度前期連携講座数は、ガイドブック掲載分で763講座となっておりますが、掲載以外の講座も届いておりますので、ホームページでご覧の上、ご活用ください。ガイドブック掲載以外の連携講座は、キーワード「ガイドブック掲載外」と打ち込んで検索してください。

◎平成18年度連携講座（前後期）の集計（全1,602講座）

ほっかいどう学コース 274講座 能力開発コース 308講座 環境生活コース 206講座
健康・スポーツコース 200講座 教養コース 614講座

◎称号取得者数 学士166名 修士87名 博士55名 学長奨励賞 2名

◎管内別学生数

(学生数 20,318名)

管内	石狩	渡島	檜山	後志	空知	上川	留萌
受講生	7,093名	972名	994名	1,276名	920名	2,564名	680名
管内	宗谷	網走	胆振	日高	十勝	釧路	根室
受講生	537名	1,419名	556名	1,056名	542名	942名	768名

主催講座「ほっかいどう学」出前講座 終了!

昨年度から道民カレッジでは、「ほっかいどう学」を基軸として、出前講座を実施しております。

この「ほっかいどう学」出前講座は、実施を希望する市町村の要望にもとづき、学習者の参加も図りながら、その企画・実施を市町村（教育委員会等）と道民カレッジが共同で取り組むものです。

方法としては、地域住民の学習活動のリーダー及び行政職員等の養成・能力の向上を図るため、研修プログラムを充実させ、学習方法についてもリーダーや支援者の専門性を高めるとともに、道民自身が企画・運営に参加する学習プログラムの開発を行っていくというものです。

今年度、全道6圏域12市町村で実施した「ほっかいどう学」出前講座は、2年目となり、様々な地域課題をテーマに充実したプログラムが企画され、それぞれの地域における特色あるまちづくりや人材育成に大きな成果をあげることができました。



市町村	テーマ（地域課題）	実施日	派遣講師	参加者
釧路市	子育て対策 ～子どもの自尊心が高まる地域との関係づくり～	9月23日	北海道教育大学釧路校 教育基礎分野 助教授 二宮 信一	20名
帯広市	地域の価値、再発見（フィールドワーク編） ～歩いて、見て、地域づくりを考える～	9月23日～ 24日	札幌国際大学観光学部 助教授 吉岡 宏高	30名
礼文町	地域の教育力向上を目指して ～大人が考える子どもの居場所づくり～	9月30日	北星学園大学社会福祉学部 講師 河野 和枝	16名
松前町	北海道遺産「松前城と寺町」 「文化財を活用したまちづくり」	10月24日	ノンフィクション作家 合田 一道	28名
占冠村	地域資源を活用したまちづくり ～「美しき村であるために」 食・自然・そして人のつながり～	11月 7日	料理研究家 西野 洋子 北海道入道フードフロンティア 食味鑑定士 山本 敬介 パネラー 福田 和彦 江頭、森田	64名
えりも町	食のまちづくり ～漬け物のまちおこし～	1月13日	北海道医療大学 助教授 堀田 清	48名
真狩村	・生涯学習活動を環境美化活動という視点から考える ・生涯学習活動を農業の新たな挑戦という視点から考える	1月26日	浅井学園大学 助教授 谷川 松芳	25名
		2月22日	麻田農園経営 元副知事 麻田 信二	50名
室蘭市	産学交流と起業家づくりで明日の室蘭をつくる	1月27日	室蘭工業大学 教授 渡辺 正夫 北海道大学 教授 町井 輝久	50名
上湧別町	人生を豊に過ごすために ～地域社会での役割を考える～	2月 9日	北海道医療大学看護福祉学部 助教授 長谷川 聡	110名
恵庭市	コミュニティーFMのまちづくり ～新しい文化の創造～	2月25日	北海道大学 教授 町井 輝久 札幌学院大学 教授 小内 純子 // 北郷 裕美 各コミュニティ放送局員	50名
白老町	自然の恵み、虎杖浜温泉の可能性が まちを活性化させる ～虎杖浜温泉地区の誘客・発展戦略を考える～	2月28日	札幌国際大学 教授 松田 忠徳	60名
斜里町	青少年の人権を守るために ～コミュニケーション能力を 高めるためのワークショップ～	3月11日	青少年自立支援センター 「ビバの会」運営委員長 安達 俊子	42名

称号取得者等「学習成果活用セミナーⅤ」を開催

テーマ：「学びの成果を生かした実践的なノウハウを知る」

平成16年度に第1回セミナーを開催して今回5回目となるセミナーを、2月13日（火）に開催しました。今回のセミナーでは、「学びの成果を生かした実践的なノウハウを知る」のテーマのもと称号取得者、モニター、ボランティア等53名の参加者が集い、これまでの学習を生かし取り組んできた活動や自主講座の企画・運営に関わる研修を行い、今後の学習機会の拡充と更なる自主活動への拡がりを探るという主旨で取り組みました。

研修内容では、道民カレッジ事務局の武田から「今後の道民カレッジの推進に向けて～学習機会の拡充と人材育成プログラムの開発に向けて」と題し、今後の道民カレッジの方向性と称号取得者やモニター等の取組に期待する内容について基調説明を行いました。

講演は、オフィス鶴羽代表取締役の鶴羽佳子氏より「自らの学びを生かすボランティア活動～学びを活動に生かすための資質とは～」と題し、テレビのニュースキャスターやアナウンサーとしての経験をもとに、学習した成果をボランティア活動に生かすための、コミュニケーションのとり方等について、参加者の発表を取り入れながら楽しくお話をいただきました。

午後からは、事務局から「連携講座の開設申込手続き」及び「単位の認定、取得方法」についての説明後、6班に分かれグループワークを行いました。



グループワークでは、「自主企画講座の取組に向けた実践的なノウハウを知ろう」とのテーマで、圏域ごとに分かれ、仮想講座の立案を行いました。

参加者の中には、事前に構想を準備された方もいて、話し合いのリーダーとなっていたグループもあり、充実したグループワークとなっていました。

また、後半では、立案した仮想講座を発表し合い、課題や問題点についての意見交換を行いました。今後もこのような実践的な研修を重ね、地域での連携講座増のために活躍していただく足がかりにしていきたいと考えます。

参加者の声

- ・ 今回のような研修の積み重ねが必要である。内容や留意点が具体的にになれば実践的なものになったと思う。
- ・ 初めての学習で、考えをまとめるのに時間がかかったが、よい参考になった。
- ・ 具体的な取組で大変楽しかった。内容も変化があり有意義であった。
- ・ 称号取得者もこれから取得される方も、かなりの情熱をもっているのので、夢を語る機会がほしい。
- ・ グループワークは、相互の交流の場となった。
- ・ このようなセミナーには、出来るだけ参加して学習を深めたいと思っている。
- ・ 自分たちで企画することの難しさ、楽しさを体験できた。
- ・ 人間としてのマナーやコミュニケーションで、人と人との関係がよくなることがわかった。
- ・ もう一度「生涯学習とは」について問い直す必要があると感じた。学びを続けたいと思う。
- ・ 講座を企画しよう！みなさんの考え、企画を聞き、楽しい一時を過ごした。

特別選定講座（指定講座）を設定

道民カレッジでは、平成19年度から「ほっかいどう学」を更に充実するため、現在の主催講座である「大学放送講座」と「出前講座」の他に、「特別選定講座」を設定します。「特別選定講座」とは、連携講座の「ほっかいどう学」コースの中から、特別に「ほっかいどう学」として優れた内容のものを主催講座に準ずる講座として選定し、指定講座とするものです。この講座を受講しますと、必修単位として1講座につき1単位が認定されます。

19年度前期特別選定講座として（2講座）

- 講座名：「平成19年度「ほっかいどう学」ネットワーク推進事業 主催：（財）北海道生涯学習協会
開催日：1回目7月13日（金）・2回目8月6日（月）（全7回開催）10：30～10：15
- 講座名：「人が活かされて、人が生きる街づくり」 主催：北翔大学
開催日：7月7日（土）・7月14日（土） 10：30～15：00

主催講座「ほっかいどう学」大学放送講座

10大学の放映が好評のうちに終了!!

北海道（あるいは道内の地域）について、7つの学習領域を基本に、現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える大学放送講座をHBCテレビで放送しました。また、今年度は、インターネット配信による北海道BBでも放送しました。今年度は、昨年より2大学増え10大学（札幌大学、東京農業大学、北海道医療大学、北海道教育大学、北海道情報大学、北海道大学、北海道東海大学、北海学園大学、北海道武蔵女子短期大学、旭川大学）が、学習領域に沿った内容を放送しました。

7つの学習領域とは、①北海道の総合施策に関わるもの②北海道の文化と歴史に関わるもの③北海道の自然・環境に関わるもの④北海道の産業に関わるもの⑤北海道の生活に関わるもの⑥北海道の芸術・文化に関わるもの⑦北海道の地域づくりに関わるものです。

平成19年度は、旭川大学、札幌大学、東京農業大学、北海学園大学、北海道医療大学、北海道教育大学、北海道情報大学、北海道大学、北海道東海大学、北翔大学の10校となります。これから放送内容について検討して参りますが、決まり次第、皆様にお知らせいたします。

北海道産の食材を使った健康料理を学ぶ（道民カレッジ連携講座）

道民カレッジ連携講座「星澤幸子先生の『夢のクッキング』講座」が、1月25日と2月8日に開催されました。

参加したカレッジ生は、テレビなどでおなじみの星澤先生による楽しくためになるお話を聞きながら、料理のデモンストレーションに見入っていました。できあがった料理を試食しながら、楽しいひと時を過ごしました。



新規 道民カレッジ称号取得者一覧（平成18年10月26日～平成19年3月22日）

【道民カレッジ博士】 60名中

酒井 清美（湧別町）、	渡辺 実（旭川市）、	逢坂 利昭（札幌市）、	豊田カヨ子（札幌市）、
山吹 英男（音更町）、	藪谷 義雄（帯広市）、	佐々尾雅志（札幌市）、	飛谷 昭一（旭川市）、
吉谷 健一（音更町）、	平石 修（札幌市）、	永井 頼恵（江別市）、	佐藤 一雄（江別市）、
高畑 司（札幌市）、	内田美佐子（音更町）、	西野 祥子（帯広市）、	石 好八郎（小樽市）、
松田 幸雄（帯広市）			

【道民カレッジ修士】 91名中

西野 祥子（帯広市）、	川原 一成（札幌市）、	逢坂 利昭（札幌市）、	稲葉 泉（札幌市）、
箕浦 義則（帯広市）、	蛭川 剛之（江別市）、	内田美佐子（音更町）、	尾野 俊勝（帯広市）、
松田 幸雄（帯広市）、	高畑 司（札幌市）、	五郎部 勇（札幌市）、	佐藤 一雄（江別市）、
犬飼 希佑（札幌市）、	郷司 明夫（江別市）、	中嶋 深幸（札幌市）、	中塚 豊（札幌市）、
豊田カヨ子（札幌市）、	榎本 聡子（札幌市）、	伊藤金五郎（札幌市）	

【道民カレッジ学士】 176名中

逢坂 利昭（札幌市）、	榎本 聡子（札幌市）、	豊田カヨ子（札幌市）、	船戸 若子（帯広市）、
落合 俊忠（札幌市）、	中嶋 深幸（札幌市）、	荻野 貞範（千歳市）、	紺野 秀子（帯広市）、
石岡由利子（鹿部町）、	尾野 俊勝（帯広市）、	平石 修（札幌市）、	佐々木光雄（札幌市）、
佐々尾雅志（札幌市）、	皆川 義隆（石狩市）、	小川エリ子（中札内村）、	斎藤 和男（札幌市）、
梅田 邦子（江別市）、	松尾 睦美（札幌市）、	佐賀富士男（札幌市）、	老田与三一（札幌市）、
佐藤 一雄（江別市）、	佐々木伸枝（帯広市）、	石原富士雄（函館市）、	石原 照子（函館市）、
高橋 公一（札幌市）、	飛谷 昭一（旭川市）、	岩佐勢津子（帯広市）、	上田 純一（美幌町）、
酒井 公枝（湧別町）、	三木 航一（札幌市）		

カレッジだより Vol.11

平成19年3月発行

編集・発行 道民カレッジ事務局
財団法人 北海道生涯学習協会
〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル9階
TEL(011)231-4111(内線36-343) FAX(011)231-6664
URL <http://www.hsgk.jp/college/> Eメール college@hsgk.jp

